

大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域都市再生緊急整備協議会会議

第8回 大阪駅周辺地域部会 議事録

開催日時：平成28年4月13日（水） 10:00～12:00

場 所：ヴィアーレ大阪 2階 安土の間

1. 開会

川田都市計画局長（大阪市）

おはようございます。朝早くからお集まりいただきまして、どうもありがとうございます。

定刻になりましたので、会議を始めさせていただきます。

本日司会を務めさせていただきます、大阪市都市計画局長の川田でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、会場には傍聴の方々、多数お見えです。報道関係の方も多数御来場されておりますが、皆様方の御協力のほどいただきながら会議を進行していきますのでよろしくお願い申し上げます。

協議会の会議、部会の構成員に変更がございましたのでまず、資料1に基づいて紹介させていただきます。

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構顧問瀬川様にかわりまして、理事神山様が御就任されておられます。本日はその代理といたしまして、佐々木国鉄清算事業用地統括役にお越しいただいております。

次に、日本郵政株式会社取締役兼代表執行役社長西室様にかわりまして、長門様が御就任されておられます。本日はその代理といたしまして、似内不動産企画部長様にお越しいただいております。

次に、大阪商工会議所会頭佐藤様にかわりまして、尾崎様が御就任されておられます。本日はその代理といたしまして、西村副会頭にお越しいただいております。

最後に、大阪市長は12月橋下市長から吉村市長が就任されております。

また、当部会のもとに設置いたしております、うめきた2期区域中核機能推進会議において、検討しておりました中核機能のあり方について、後ほど御報告いただくため、座長

の大阪大学理事・副学長の八木先生にお越しいただいております。

なお、本日御出席いただいております皆様の御紹介は、配席図をもってかえさせていただきたいと思っております。

それでは、議事に先立ちまして本部会の部会長であります吉村市長より一言御挨拶いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

吉村大阪市長

皆さんおはようございます。市長の吉村でございます。今日は、本当にお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

このうめきた2期というのは、大阪そしてこの関西の将来の行く末を左右すると言っても過言でなくらい重大なプロジェクトだというふうに思っております。裏を返せば、それだけ可能性のあるプロジェクトでありますし、今我々がしっかりと将来の大阪にもこのうめきたのすばらしい機能、そしてすばらしいうめきたを残していくことが、責務だろうというふうに思っております。

この大阪駅の周辺部会は平成24年に設置いたしまして、そこから皆さんさまざま議論いただきまして本当にありがとうございます。感謝でございます。そして、具体的にいよいよこの基盤整備が動き出すという時期に入ってきたわけでありまして。事業者の選定も含めて、本格的に構想段階から実現段階へというふうになってきた、まさにそういった時期であります。

今回のこの会におきましては、まさに阪大の八木先生をはじめとしました有識者の皆さんにいろいろまとめていただきました「みどり」と「イノベーション」の融合ということで、昨年の3月に基本方針はまとまったんですけれども、そこの中核機能ということをしつかりと御議論いただいて、まとめていただきました。きょうはその中身をいろいろお聞かせいただきたいと思いますというふうに思っております。そして、皆さんから忌憚のない御意見をいただきたいと思いますというふうに思っております。

このうめきた2期を成功させて、そして大阪、関西一連がこの日本国内、国外からまさに存在感をしっかりと発揮できるような、そんなすばらしいエリアにしていきたいというふうに思いますので、ぜひ皆さんの御意見をいただきたいと思います。今日はありがとうございます。よろしくお願いいたします。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございました。それでは、議事に入らせていただきます。本日の議題は、お手元に配布のとおり、うめきた２期区域の中核機能についてと、うめきた２期区域の「みどり」についてでございます。

報告事項といたしまして、うめきた２期区域暫定利用等、国際的ビジネス環境等改善・シティセールス支援事業の取り組み、M I P I Mによる都市開発プロモーションについてでございます。

それでは、事務方のほうから資料確認と御説明をさせていただきます。

2. 議題

- ・うめきた２期区域 中核機能について
- ・うめきた２期区域 「みどり」について

3. 報告

- ・うめきた２期区域暫定利用等について
- ・国際的ビジネス環境等改善・シティセールス支援事業の取り組みについて
- ・M I P I Mによる都市開発プロモーションについて

合田うめきた整備担当部長（大阪市）

それでは、資料がたくさんございますが、お手元の資料確認と説明を始めさせていただきます。

まず、冒頭に本日、26名の方が傍聴に来られておられまして、定員の10名を上回っておりますが、傍聴要領に基づきまして部会長の了承を得て全員の傍聴を認めるということによろしいでしょうか。ありがとうございます。

～ 資料確認（省略） ～

山口うめきた企画担当部長（大阪市）

それでは、事務局のほうからうめきた２期区域中核機能について、資料Ⅱによりまして御報告を申し上げます。

～ 資料説明（省略） ～

以上、案の概要を説明させていただきました。本編は資料Ⅲを御参照ください。よろしくお願いたします。

川田都市計画局長（大阪市）

引き続きまして、前回11月のときに、若い人がこのうめきたに対してどんな期待をしているかというのを、前市長の橋下市長から聞いてみるべきという話もありましたし、これから新産業であるとか、人材育成っていう観点からも若い方々がどんなことを考えていただけるかっていうのを知りたいと思ひまして、関西経済連合会のほうでフューチャー・セッションというのを企画していただきました。その御報告をさせていただきます。

福澤副参与（関西経済連合会）

それでは事務局のほうより資料Ⅳに沿って御説明をさせていただきます。

～ 資料説明（省略） ～

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。それでは、中核機能推進会議の座長の八木先生から、この会議の中身の御報告、あるいはフューチャー・セッションにも八木先生御参加、終日いただいておりますので、コメントを少しいただきたいというふうに思ひます。よろしくお願いたします。

八木理事・副学長（大阪大学）

八木でございます。よろしくお願いたします。

フューチャー・セッション、朝から夕方まで終日、一日やらさせてもらいました。すごく感じたのが、来ておられたのは、下は大学生ぐらいから上は大体30代の企業またはベンチャーやっているような方々です。そういった異業種の方々がそこに揃っていたわけですけども、その方々がすごく梅田に対する期待感というのを持たれていると。この場っていうのが一つのフィールドとして未来をつくれるんじゃないかっていうすごい期待感を

持たれて、今後もこういうのを継続的にやりたいという強い思いを持たれてたっていう情熱をすごく感じました。私もすごく触発された次第でございます。

フューチャー・セッションはそれくらいにさせてもらいまして、今回の議論を進める上で、先ほど山口さんから説明ありましたけども、大体どういう流れできたかっていうのを少しお話させてもらいたいと思います。

お題として「みどり」と「イノベーション」をいただいたわけですがけれども、やはり、考えていく上で梅田の立地条件というのはやっぱり考えてやっていかないといけないっていうのを、まず最初に議論いたしました。梅田っていうのはやはり、平日は朝通勤の方々、またお昼はオフィスから出てくる会社員の方々、また時間帯によっては夕方になってきますとアベックの方々や多様な人材、週末になりますと御家族の方々、朝はランニングをしたりとか、高齢者の方々含めて、子供も含めて多様な人がそこに存在している。やはり、人抜きにしては語れないだろうというのがございました。

すなわち、梅田の特徴というのはやはり、人が主役である。そこに、何百万人という人が毎日あらわれる。この人たちがいかに「みどり」という空間を通じて、楽しみを得られるか、これがやはりポイントだろうと。その中でイノベーションということをどう考えていくかっていうのがまず議論のスタートとなりました。

そうして、もちろん第5期の科学技術政策の中でも、超スマート社会というのがございますように、やはりこれからはI o T社会の中で社会をつくりあげていくっていうのが非常に重要だということで、じゃどうするのがいいのでしょうかというので、先ほどにもございましたけども産学官民がその場でイノベーションを起こせる場をつくりあげていくということが重要だと。そこに行けば、新しい例えば、スポーツウェアを着て運動ができる。そこで、自分の健康状態が測れる。そういったことが市民に対するインセンティブとして得られるような社会。

そして、そこで我々研究者のようなものがさらにいいテクノロジーをつくる中で、社会を良くしていく。また、企業の方々はその中で新しい商品をさらに宣伝していくというような産学官民の協同の場っていうことが非常に重要だろうということで、基本コンセプトはそこにあるという具合に考えた次第です。

ライフデザイン・イノベーションという言葉もやはり、これはなぜ生まれてきたかっていうと、そこは人が中心とした場なので、人っていうことを考えた場合に健康も重要ですし、日常生活の休養を得るっていうこともすごく重要、また楽しみっていうのをいかに与

えてやるか、学びを与えるのはいかにするかということで、人を中心にライフデザイン・イノベーションということ考えた次第です。

少し、後ろの資料になるんですが、資料Ⅲの8ページ目に大学等における、今の研究等の活動というものがございます。こちら、京都大学におけるCOIの拠点、それから大阪大学では、4月1日からデータビリティフロンティア機構というものをつくりました。ちょうど、7ページ目と8ページ目になりますが、理研のほうでは健康“生き活き”羅針盤リサーチコンプレックスというものがございます。これらは、京都大学のやつはICT技術を使って健康やサステナブルな社会をつくっていかうというような話ですし、理研が中心に大阪大学、大阪市立大学、そして京都大学といった関西連合で行っているリサーチコンプレックス、こちらは健康増進というのがキーワードで研究が進められております。大阪大学は、いわゆるビッグデータ時代において、データをいかに利活用し、社会に役立てるかということ新たに大学が横断的にできる技術をつくろうという機構をつくっている次第です。こういった、大学の中でも機構のような場ができてきているという現状がございました。

そして、産学官民という民が入ってくるというのは、今新しい時代においてユニバーシティ4.0という言葉も出てきています。これは、大学というものがやっていく上で、社会とか人とのかかわりっていうものを意識した新たな方向性っていうのを出すというのが研究学分野の中でも出てくるのでございますので、まさに今ここで書かれている方向というのが一つの梅田の新しい姿になるのではないかとということで、議論をしてきた次第でございます。以上でございます。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。中核機能の話も含めて、後で意見交換をしたいのですが、その前に議題の2つ目の「みどり」、それから関連して報告ですけれども、暫定利用について資料のV、VIを用いて説明させていただきます。

合田うめきた整備担当部長（大阪市）

それでは、資料Vのうめきた2期区域の「みどり」についてをご覧いただければと思います。

～ 資料説明（省略） ～

川田都市計画局長（大阪市）

それでは、一旦ここで意見交換に入りたいと思っております。念のためなんですけど、民間提案募集の優秀提案者というのを20者、既に選んでございますので、ある特定の提案者にとって有利になるとか、不利になるとかというような御発言は御遠慮いただきたいなと思っております。

それでは、時間の都合もありますので、一人3分ないし5分程度でお願いしたいと思うんですけど、まず冒頭に吉村市長のほうから総括的にこの中核機能に関して、コメントいただければと思っております。

吉村大阪市長

大阪大学の八木先生はじめ、4人の学識経験者の方に、この中核機能をまとめいただいて、多大なる御尽力いただきましたことに感謝申し上げます。

これから国際社会、本当にどんどん進展していく状況です。まさに、その都市が国を選び、選ばれる時代に突入していると思えますし、それがますます加速していくと思ってます。国内外、そして国際的にもこの大阪、関西が選ばれるというまちになっていくためには、やはりこのうめきたというのが非常に大事だと思っておりますし、そして、都市のパワーの根源っていうのはやっぱり経済だと思うんです。その経済が都市の底力の根源になってくると思いますので、そういった意味でこのうめきた2期の中核機能において、この新産業の育成ということを中心やっていくというのは、まさにそのとおりだなというふうに思っているところであります。

そして、僕の中で思うキーワードはやっぱり、ハブ機能だというふうに考えています。関西には、京都、神戸、けいはんな、それから、北大阪もそうですけどさまざまな技術、研究開発拠点とすばらしいものがあります。そういったものを、ハブ機能として融合させて、そして新産業を育成していく、イノベーションを生み出していくというようなそういった機能をこのうめきたに持たせるということが、僕はできるだろうというふうに思っています。

場所を見ても、関空からも近くて、そして大阪のまさに中心地にある。交通の結節点でもあるという意味では、このさまざまなライフデザイン・イノベーションを基本テーマにしながら、新産業が育成されるというそのハブの拠点としてうめきたが生まれるというこ

とをぜひ期待したいと思います。

そういった中で、行政の枠組みだけでは当然無理です。経済界の皆さん、周辺地域の皆さんとしっかりと連携をした上で、このうめきたの機能というのをさらに皆さんから御意見いただいて、充実させていって、まさに中心地と言えるようなうめきたをつくっていきたいと思います。私からは以上です。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。それでは、次に関経連の森会長からコメントをいただきたいと思います。

森会長（関西経済連合会）

関西経済連合会の森でございます。先ほど、うめきたの2期開発について報告をしていただきました。本当に吉村市長からもございましたけれど、八木先生はじめ、関係者の皆様方には精力的に活動を進めていただいたことを厚く御礼申し上げたいと思います。

私からは、3点お願いをさせていただきたいと思います。

まず、1点目は中核機能における総合コーディネート機関についてでございます。関経連では、うめきた2期の最大の目玉は抜群の立地状況を生かしたイノベーション機能を持たせることにあるというふうに考えております。しかも、うめきた2期の中だけで完結する存在ではなくて、市長からもお話ありましたように、関西一連の大学、研究所、企業などのネットワークを促すつなぎ役、まとめ役として関西のイノベーションを牽引するということを考えております。

また、ナレッジキャピタルとか大阪イノベーションハブのような、1期における既設の機能との相乗効果を発揮するという観点も重要であると思っております。総合コーディネート機関の機能や役割はこうした点をしっかり踏まえて、考える必要があると思っております。先ほどの御報告ではライフデザイン・イノベーションというキーワードを示していただきましたが、健康、医療産業をイノベーションのターゲットに据えるというのは、私ども関経連としても大賛成でございます。うめきたを中心に、関西の健康、医療産業はさらなる飛躍を遂げることが出来ますよう、中核機能推進会議におきまして総合コーディネート機関の機能や役割の検討を急ぐ必要があるというふうに思っております。

関経連としても、最大限の協力をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

それから、2点目は都市公園部分の取り扱いについてでございます。まちづくりの目標であります、世界の人々を引きつける比類なき魅力を備えた「みどり」とするには、例えばTMO主催の収益性のあるイベントの会場として使用するなど、都会のど真ん中にある「みどり」だからこその活用方法を考えなければならないというふうに思っております。

そのために、民間事業者から積極的に多くのアイデアを出してもらうことが必要ですが、ただ公園にどのような規制がかかるのか、その規制がどの程度緩和される可能性があるのかといった前提条件なしには「みどり」の活用のアイデアを示すのは非常に難しいというふうに思います。

また、よい活用方法が出てきましても、それを実現する上で公園の整備や、運営の資金など持続性が担保できるかどうかという検討も必要になるというふうに思います。その点で、大阪市さんには2次募集の応募の要項に、「みどり」の活用にかかわる前提条件をできるだけ具体的に定めていただくようお願いしたいというふうに思います。

それから3点目は、うめきた2期の開発にあわせまして、関西圏全体の成長戦略の中でうめきたをどう位置づけるのか、具体的な都心戦略を短期、中期で持つべきだというふうに思います。

うめきたは大阪のみならず、関西の将来の鍵を握るエリアでありますので、関西、広域の視点からうめきたの役割を逆算して描くべきであるというふうに思っておりますし、それに沿ったコンペを実施していただきたいというふうに思っております。関経連には、現在そうした観点から大阪の都心戦略を検討しております。近いうちにその成案をお示ししたいというふうに思っておりますので、2次募集の要項づくりのぜひ参考にさせていただきますようお願いしたいというふうに思っております。私からは以上です。よろしくお願いいたします。

川田都市計画局長（大阪市）

森会長どうもありがとうございます。経済界の方々に先にコメントいただきたいと思っておりますので、同友会の村尾代表幹事のほうから済みませぬ願いたします。

村尾代表幹事（関西経済同友会）

2期地域の中核機能ということで、非常にすばらしい方向性を打ち出されているということで、まずは敬意を表するものでございます。全般的には、森会長がお話になった方向

というのが私どもの持っている考え方と重複しておりますので、そこはカットいたしまして一点だけお話させていただきたいと思います。

都市型エリアMICEというものがここに書いてございます。この報告書がうめきた地区に限定したものであるので、こういう書き方なのかなと思ってるんですが、実は一方で大阪府、市さんも検討しておられる、あるいは我々経済同友会の提言しております夢洲を中心とした大規模なMICE施設というようなもの、これはやはり市長がおっしゃられたようにハブ機能ということで、そこと連動したMICEを考えないと発展性がないのではないかと。

今、国際的なMICEの潮流を見ますと、大体会議参加者で1万人規模以上、広さでいくと大体10万平米以上というようなものが、世の中の常識でそれが世界各国に何十カ所もあるということで、大規模な会議、あるいは展示を誘致しないと関西の起爆剤にならないということでございますので、この地区の既存設備の有効利活用という意味での都市MICE・IRという考え方はわかるんですけども。

基本的には国際的な競争に打ち勝つような大規模なMICE施設をつくらないと。例えば、日本最大のビッグサイトですらなかなか韓国、香港、シンガポールにも勝てないで連敗を続けている。会議の開催件数2014年だけで見ますと、ビッグサイトを持っている東京ですら、世界22位、大阪にいたっては世界で222位。圧倒的にこのMICE施設の規模で負けているということなので、ぜひこれは夢洲にするかどうか別にしまして、大阪に大規模MICE施設を誘致することによってより強力な起爆剤を投入すべきだと。

したがって、うめきた地域に限定した周辺地域の有効利活用という面での都市型MICE・IRというのは私も十分理解できるんですが、もっと大きな大大阪、あるいは関西レベルでの活性化っていう意味でぜひハブ機能につながるものとしてのMICEという構想を、府、市さんも今検討を進めておられますが、着実に進めていただきたいということをおのほうから少し意見として提示させていただきます。ありがとうございました。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございました。それでは、大阪商工会議所西村副会頭のほうからよろしくお願ひします。

西村副会頭（大阪商工会議所）

大阪商工会議所の西村でございます。うめきた2期区域開発に関しまして、コメントをさせていただきます。

初めに、うめきた2期区画中核機能につきまして、御検討いただきました座長の大阪大学八木先生はじめ、関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、2期区域のまちづくりの目標でございます。「みどり」と「イノベーション」の融合拠点については、うめきたをその立地特性を活かし、大阪、関西が有するすぐれた研究や技術、サービスを産業に結びつけ、イノベーションを創出する「関西のハブ」としての位置づけ、世界に類をみない「みどり」をイノベーションの実証、体験フィールドとして活用するとの方針は、先ほど少し市長からも触れられましたが、非常に付加価値の高い都市機能を集積させることが重要と訴えてきました、大阪商工会議所としても大いに賛同するところでございます。

また、拠点のテーマを人々が健康で豊かに生きるための新しい製品、サービスを生み出すライフデザイン・イノベーションと設定されましたことは、医療のみならず健康で豊かな生活、全てにわたるイノベーションを志向することから、ライフサイエンス分野はもちろん、化学や家電、情報・通信、繊維など大阪・関西が強みを有するモノづくりやサービス産業など、多様で幅広い産業分野のポテンシャルを如何なく発揮できるテーマであると感じております。

さらに、「みどり」と「イノベーション」の融合拠点における、「ライフデザイン・イノベーション」の実現のために、必要な中核機能であります、とりわけ新産業創出に関して、総合コーディネート機関が必要であるとの提案については、森会長も触れられましたが、大阪商工会議所の長年にわたるライフサイエンス分野やモノづくり・サービス分野における産官学、産産連携を通じたイノベーション創出に取り組んできた経験からも、その必要性、重要性を痛感しており、全く異存はございません。

しかし、総合コーディネート機関が期待される役割や機能を存分に発揮し、ライフデザイン・イノベーションを創出するためには、このコーディネート機関を誰が中心となって設置し、誰が責任を持って運営するのかをしっかりと議論していく必要がございます。コンペを通じて決定されます事業者はどのように関わるのか。また、自治体の関与はどうか。このへんを早急に明確にしていくべき課題だと感じております。

大阪商工会議所といたしましても、これまでに有する経験を生かし、可能な限り協力さ

せていただく所存ではございますが、私どもがライフサイエンス分野で現在取り組んでいる医薬品、医療機器のビジネス創出に向けたプラットフォーム事業を、このコーディネート機関と連携し、うめきた2期で展開することも視野に入れてまいりたいと考えております。

また、知的人材育成に関しましては、言うまでもなくイノベーション創出には不可欠でございます。かつ、継続的に取り組む必要があると考えております。また、うめきたの立地特性や「みどり」を生かした実践的な教育プログラムを構築することで、国内外の多様な人材の集積、交流が期待されるものと思っております。

新産業創出や、知的人材育成をはじめ、中核機能実現のためには相応の時間を要します。うめきた2期のまちびらきの前から、早期かつ継続した産官学連携による取り組みを行うことをお願い申し上げ、私のコメントとさせていただきます。どうもありがとうございます。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございました。今、森会長をはじめとします経済界の方々から、総合コーディネート機関についての産官学の役割について、中核機能推進会議において検討を進めていく必要があるのではないか、あるいは「みどり」に関しては公園の整備、運営の持続性が担保できるような前提条件を募集の際に定めていくべきであると。

それから、森会長からは都心の戦略ということで、うめきたの果たす役割を大きな都心戦略の中でお示しいただきたいというような話。それから、村尾代表幹事のほうからは、都市型エリアMICEというもののほかに、いわゆる大規模MICEというものの経済の国際競争力の中での必要性についてコメントがございました。

吉村市長から少しコメントをいただきたいと思っておりますし、大規模MICEという意味では、松井知事からも少しコメントいただきたいと思っております。吉村市長からまずお願いしたいと思います。

吉村大阪市長

まず、新産業創出を大きな基本テーマと置けば、やはり総合コーディネート機関の果たすべき役割というのは非常に大切になってくると思います。そういった意味で、共通認識しておりますし、これからも引き続き総合コーディネート機関の組織、機能、役割、具体

的な中身について、中核機能推進会議の中でも検討をお願いしたいというふうに思っております。先ほど申し上げておりますように、このうめきたはハブ機能を果たすということが私は絶対に必要だというふうに思いますので、そういったことをまさに検討をお願いしたいと思います。

それから、経済界の皆様も例えば、けいはんなの運営であったり、あるいは、医療創生会議の運営という意味では関経連の皆さん、ノウハウがありますし医工連携という意味であれば、商工会議所の皆さん既にノウハウも実績もおありですので、その経済界の皆さんのノウハウ、実績、協力をお願いしながら、このうめきたにおける総合コーディネート機関を充実させていくと、そして制度設計して充実させていくということを次のステージに向けて、しっかりやっていきたいというふうにお願ひします。

世間からしっかりと注目を受けて、見張られながらも注目を受けるというのが大事だと思いますので、さまざまな情報発信というのもやっていきたいというふうに思っています。

それから、都市公園についてですがこれはできる限り民間のノウハウ、提案、発想が都市公園に生かせるということにする必要があると思います。行政が縛りかけるとするのは、僕はあまりそういう思考を持っていませんので、特に今大阪城についても同じようなことをしています。大阪城、後数年すれば大きく変わってきます。民間に公園全体の委託をしているのですが、大きく変わってくると思います。それから、天王寺の「てんしば」なんかもそうです。橋下前市長がやられたことですが、僕もその路線は引き継いでますので、こういった都市型の大きな公園、それから産業創出機能を持たせるという意味では、行政としての縛りというのでもできる限り徹底的に、なくすところはなくしていきたいというふうに思っています。防災公園としての機能がありますので、本当に公共が果たさなきゃいけない役割というのは当然残した上で、民間の方のノウハウ、発想が最大限この公園の全体運営に生かせるというやり方でいきたいというふうに思っています。

それから、関西全体の成長戦略の中での位置づけということですが、まずこれまで府と市が違う方向を向いてきた時代もありますが、今、府と市一体になって成長戦略だったり、都市魅力創造戦略というのを今掲げて、新産業の創出であったり、イノベーションの創出ということで一体になって進めています。そういった意味で、それをこれからも続けていきたいと思ひますし、関経連の皆さんに先ほど検討中ということですので、そこの協調も図っていきたいというふうに思っています。私からは以上です。

松井大阪府知事

八木先生どうもお疲れ様でございました。ありがとうございます。きょう中核機能のコンセプトをまとめていただきまして、僕、八木先生と事前にいろんな打ち合わせしたのではないのですが、きょうまとめていただいたものは、今、大阪府が国に対して求めている万博の誘致ですね、これ国家プロジェクトとして位置づけてほしいということで、手を挙げてもらいたいということで、大阪府として、今、国に求めているところと、全く合致すると。万博のテーマとして考えるものが、健康、命、長寿という部分でありますから、これと全く一致するものを逆につくっていただいてありがたいなと思っているところです。

要は、大阪の持つポテンシャルを一つにまとめて、その代表としたエリアがうめきた2期、これを世界にプロモーションしていくことが世界から人を集めてくるということにつながってくると思います。これを、集めてくるプロモーションの手段、手法で一番効果が出るのが僕は万博だ、こう思っております、経済界の皆さん一つ一つのプロジェクトにはいろいろ御協力いただいておりますけれども、これを取りまとめて世界に情報発信すると。あらゆるところにぜひ御協力をいただきたいなと。

先ほど、若い人たちが集まってフューチャー・セッションされていまして。彼らも、新しいものを生み出そうという熱意にあふれている。彼らが生み出したものを、世界にどう情報発信するんだと、生み出したものを発表する場所、これを、明確に目標年次を定めて姿をつくるのが我々の役割かなと思っています。これをやることによって、そのエリアの一つの中には先ほど、村尾代表幹事がおっしゃっていた大阪湾、ベイエリアのにぎわいをつくっていくというのも非常に重要なところだと思います。

MICEもやはり、カジノを含めるIRでないと圧倒的なMICE機能を持ったまちづくりというのは、投資が進まないと思っています。これも、国に対して、今、非常に強く働きかけていますが、残念ながらまだ法律として成立をしておりません。これにおいても、関西、そして大阪一丸となって国に対して皆さんとともに、なかなかこじ開けられない壁をみんなで開けていきたい、こう思っていますのでよろしくお願いしたいと思います。

ちょうど、2025年にこのうめきたも含めて、さまざまなプロジェクトの可能性というものが見出されてきているわけですから、東京オリンピック2020年以降、日本の経済を引っ張っていける中心が大阪だという、そういう捉え方で、もちろん大阪府、大阪市は一体でやりますけど、経済界の皆さんも一つになって、オール大阪で2020年以降の日本の経済を引っ張れるエリアをつくるということで、力を合わせたいと思います。よろしくお

願います。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。中核機能の話で継続して検討するということのリクエストがありましたので、八木先生少し今の段階でコメントをいただきたいなと思います。

八木教授（大阪大学）

今、いろいろお話をお聞きして、一つ世界というキーワードがあったかと思えます。今回、我々議論させてもらったのはどちらかというとイノベーションを起こす仕組み、産学官民というものが加わった協働の仕組み、またライフデザインというテーマを設定することによって、大阪の企業、また全てが入りやすいという絵を描いたつもりでおります。

実際に、先ほどございました創薬のような方々も興味を持っています。それから、繊維業界、モノづくりも興味を持っています。全ての業種、大阪に近い業種が興味を持てるというところで、今回、協働の仕組みの中でイノベーションを起こすというのは非常に役立つだろうと。

こういう仕組みってというのは、日本の中を見てもほかにはないと思うんですね。産学官民がこうやって一緒につくれるフィールドってというのは。世界を見てもほとんどございません。そんな意味で世界からすごく注目を集める存在になれると思いますので、世界の企業が大阪にやってきてくれる可能性が私はあると思っております。

その意味で、こういう仕組みで大阪の活性化っていうのを図れたら重要だと思います。もちろん、それをやっていく、実際に動かす上で、組織として総合コーディネートの仕組みっていうものをきっちりしとくということも非常に重要だと私自身も認識しております。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。引き続き、八木先生には御苦勞かけますけれども、検討を一緒になって継続させていただきたいと思っております。

それでは、続きまして内閣府伊藤審議官願います。

伊藤審議官（内閣府地方創生推進事務局）

内閣府の伊藤でございます。八木先生をはじめ、非常に中核機能について魅力的な御提

案を取りまとめていただいて、大変ありがとうございます。その上で、少し国全体のお話を、もしかしたら松井知事とか吉村市長に怒られるかもしれないのですが、いい話と悪い話をしたいというふうに思います。

一つは、直近の国全体の人口移動でございますが、残念なことに転出入に関しては東京の一極集中がとまっていない状況であります。東京圏が転入超過12万人、それに対して残念なことにここ大阪圏は転出のほうが、今までは割と転出入増ゼロだったのですが、むしろ外に出ているっていう状態になっておりまして。私、地方創生の担当をしているものですから、大変危機感を抱いているところでございます。

そうした中で、観光につきましては話題のとおり、2015年に約2,000万人のインバウンドの観光があつて、2020年には4,000万人の高みを目指すということで、今年の3月に観光ビジョンが取りまとめられたところでもあります。そうした中で、当然関西、とりわけこの大阪に引っ張っていただくという役割を我々としても非常に期待しているところであります。

関西、先ほど話がありましたように、大阪とか神戸とか京都とかそれぞれの中にいろんなプロジェクトが現に動いているところでありまして、また大阪圏内におきましてもいろんな動きがあるというふうに伺っておりますので、医療、観光をはじめとしてさまざまな分野でまさに産官学、我々でいくと金、金融機関、労働界あるいはメディアも含めてですが、いろんな方々の御協力のもとに、ぜひ関西の中でのうめだの役割分担をお考えいただいた上で、これを牽引するものとして中核的なものが位置づけられていくとありがたいなと、こういうふうに思っているところであります。

「みどり」という非常に、普通の都市再生のプロジェクトの中でそれを中核に据えるというのはあまりに聞いたことがない、あまり例がない、これは大阪府と大阪市の大変な御英断だというふうに私も思っておりますが、その活かし方がどうだということをきょうお話いただいたというふうに思っております。

民間、先ほどの産官学金労言じゃないですが、民間のアイデアを生かす、観光もですね実は大きな目玉としては、国の施設、宮内庁含めての施設を開放するとか、あるいは国立公園をもうちょっと活用するとか、国、公的な物を民間も含めて活用するというのも一つの目玉になっておりますので、そういう意味で言うところの「みどり」の使い方なんていうのもまさにそういう話なんだというふうに思いますが、これが大阪市なり公共性との役割分担のもとで、サステイナブルな形でぜひ魅力的な物として運営されるように今後お考

えいただけると、大変ありがたいなというふうに思っております。

私どもとしても、なかなか努力が足りないと思われるところも多々あると思いますが、引き続き一所懸命応援をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。関西の応援をぜひ関西出身の伊藤さんにしていただきたいと思っております。先ほど森会長からもお話ありましたし、伊藤審議官からもお話ありましたが、「みどり」の持続的な運営ができるように、「みどり」が今回のまちづくりのキーになっておりますので、我々としてもそこに対しては非常に配慮して、条件設定を考えていきたいと思っておりますので、よろしく御理解のほどお願いいたします。

それでは、近畿運輸局の天谷局長コメントいただけますでしょうか。

天谷局長（国土交通省近畿運輸局）

近畿運輸局の天谷でございます。うめきた2期地区、世界をリードするイノベーション拠点として新産業の創出、活性化こうしたことを通じて、関西全体の国際競争力を強めていくということは、大変意義深いことだというふうに思います。

そういった中で、この報告の中にもありましたようにうめきた2期のプロジェクト、まさにうめきたという立地を活用していくということで、その立地というのは何かというと、まさに大阪の表玄関、大阪駅の真ん前。市長の言葉にもありましたように、関西のハブ、関西の交通の結節点ということで、こうした機能を十分に発揮できるようにしていくこと、すなわち交通の結節機能でありますターミナル機能、人々が移動しやすいとこういったような機能というところにも利便を図っていただければというふうに思っております。

それから、もう一点質問になってしまうかも知れないですけど、この報告の中でも国際集客、あるいは交流機能の充実を図っていく、特にMICEの充実を図っていくと、こういったことが言われております。

今の伊藤審議官のお話にもありましたように、インバウンドで大阪などは、特に、日本が一番インバウンドで盛り上がっているというようなところで、大阪のホテルの稼働率とか見れば八割から九割というようなところで、ほぼ飽和状態です。これから、2,000万人から4,000万人、6,000万人とこういっただけをやっていこうという中で、例えばMICE

の充実とかそういうことを考えていく前に、ホテル機能というか宿泊機能、この充実というのも大事になってくると思うんですけども、そういった機能っていうのはうめきた2期の中に含めて考えておられるのか、どうかというあたり、中には記述は出てこないでその辺をもしあるのであれば、教えていただければというふうに思っております。以上でございます。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。やはり、イノベーションもそうですが、観光という議論もありますし、世界の方々を受け入れるというキーワードで議論してきました。まちづくりの基本方針、小林先生座長でまとめていただいたところにも、そういう宿泊機能であるとかいうのは大きな意味でうめきた2期の機能として必要であろうというのは位置づけております。

それでは、近畿地方整備局の朝比奈副局長お願いいたします。

朝比奈副局長（国土交通省近畿地方整備局）

近畿地方整備局の朝比奈でございます。よろしく申し上げます。御存じのことだと思えますが、森会長、それから関係した皆様にも御協力いただきまして、今年の3月に関西広域地方計画というものを取りまとめさせていただきました。そこで、今後おおむね10年間の関西の地域づくりのビジョンを定めましたが、その中でも関西成長エンジンプロジェクトの一つとして、この大阪駅周辺地域を都市基盤の整備を進めるとともに、うめきたナレッジキャピタルを強化、発展させ、世界からの人材、技術の集積、合流を促進することで、新しい産業、技術、知財を創造する、新たな国際競争力を獲得し、我が国の成長エンジンとなる世界をリードするイノベーションの拠点とする。まさにそういうふう書いております。

また今回、きょうの議題にもあがっています「みどり」につきましても、新しい都市景観を創出し多様な活動、新しい価値を生み出す源となり、世界の人々を引きつける拠点を形成するというふうにしていきます。また、同時に策定いたしました社会資本整備重点計画、この中でも国際競争力を強化し、輝く近畿となるための社会資本整備という重点目標の一つとして、特定都市再生緊急整備地域における都市開発プロジェクトの促進に必要となる、インフラ整備等の推進により大阪をはじめとする大都市の国際競争力強化のための基盤整

備を推進すると位置づけています。

まさに、このうめきた2期プロジェクト、それから今回御提案のある中核機能も含めましてこの広域地方計画に位置づけたように、世界をリードしてそして近畿の成長エンジン、元気の源となるように期待しております。

私どもとしまして、今後さまざまな形で支援させていただきたいと考えております。

川田都市計画局長（大阪市）

どうもありがとうございます。それでは、「みどり」の議論とかもありますので、安藤先生、よろしくをお願いします。

安藤教授（東京大学）

今、話がありましたように、「みどり」を中心にするというのは、大変珍しい、珍しいと言ったらおかしいけども、ただこれはいわゆる大阪というよりも、大阪、京都、神戸という関西の中心地に心のふるさとをつくるという大きな志が出ていて、私はすごくいいというふうに思います。そうして、先ほど市長が言われましたように、可能性を感じるという場所。

今、伊藤さんが言われましたように、確かに大阪から出て行っているわけですね、これなぜ出て行くかということを考えなければならないと思います。やっぱり、魅力があったら帰ってくる。そのためには、今、「みどり」を中心にということですから、今度は中途半端な「みどり」ではまずいんじゃないかと思います。

相当、経済界、行政の人たちとかしっかりとリーダーシップも持っていただいて、やっていただかないかと思うのは、国立競技場の審査委員長をやりまして、私あのときに思いましたけれども、全体計画がないんですね。国立競技場の計画はあるけど、ほかの4つの競技場はみなないんですね。リーダーがどこにいるか分からない。そして、リーダーがないから決断力がない、決断力がないから前に進まない、進まないからおかしなことになっていくままに、ごちゃごちゃになってしまうと。

今、エンブレムというのをやっていますが、市民に聞く、市民に聞くじゃ審査員要らんやろうと、私は言うたんですけども。それやったら市民に初めから聞いて、やればいいんじゃないかと。その無責任さが日本のいいところなんですけれども、もうそろそろその日本のいいところを、この大阪は吉村市長に排除してもらって、がたがた言うなど、これで

いくと。まだ若いから。

今、2025年で、松井知事が言われましたけど、我々もうそのころは生きておりませんので、やっぱりよっぽど強いリーダーシップでもっていただかないかと。

私、今、あちこちでやっているんですけども、ベニスで中心にやってまして、その中心は古い建物を再利用した美術館をつくろうと。その周辺に幾つも古いものがあるから、古いもの再利用しながら、そしてそれに音楽祭、映画祭、建築祭、芸術祭がいっぱいあって、そのことも考えると。イタリアは、あちこちで言われますが国が潰れると言いますが、先ほどお話があったように、豊かな生活があるというふうに私は思っているんですが、大阪はやっぱり豊かな生活を支えている、可能性のあるまちだということにならないといけないのではないかと。

パリで、私が今やっているのは、ポンピドゥー・センターというところがあるんですが、その横に巨大な証券取引所みたいなのがありまして、その一帯をやってほしいと。ものすごいスピードで進んでいくんですね、こないだのテロ以前から。どこにそんなにすごいリーダーシップがあるのかわからないくらいに進んでいきます。もう発表していますから、もうそろそろ前に行くわけです、それも古い、巨大なローマのパンテオンより大きい19世紀のものがあるんですが、それを中心にしながら。中心はやっぱり生きてるものなんですね。300年生きてたとか、500年生きてたとか、人間が大事だと。人間が大事な開発をしないと、経済が大事な開発なんですけれども、やっていかないかんってときに、ここでしかできないと。京都、神戸、やっぱり大阪が圧倒的に強いんですから、湾岸エリアも頑張らないといけないと思います。中心から頑張らないかん、そのためにはぜひスピードを持ってやっていただきたいと。

そして、日本に誇れるだけではちょっと弱いので、やっぱり世界に誇れるものを、先ほどの絵を見ていましたら、かなり大きな「みどり」ですよ。ニューヨークのセントラルパークほどではないけれども、志を見せれば大きさは問題ないと思うんです。志を発表してやったら、多くの市民が例えばあそこに公園ほしいなということには心から賛同しています。それを引っ張ってやれば、市民がみんなわくわくしてくるんじゃないかと。そうならば、少しは外へ出て行く人が減るのではないかと。東京行ったけども、大阪帰ろうかという人が出てくるくらいのリーダーシップと、気迫を持ってお願いしたいと市民の一人としては思います。

川田都市計画局長（大阪市）

大変ありがとうございます。でき上がる前、先ほどの暫定利用のほうですけど、その暫定利用を通じて、市民の方が身近にうめきたを感じていただけると思うんですよ。これから未来が少し展望できるとか、そういうわくわく感が出るような暫定利用というのをずっと続けていきたいなと思っておりますのでまた御支援よろしく申し上げます。

では、小林先生申し上げます。

小林教授（横浜国立大学）

きょう、中核機能のお話で紹介いただきありがとうございます。もともと、まちづくりの全体像を掲げてつくったわけですから、それをうまく延長させて、新しいうめきたの姿を表現していただいたと思っております。

特に、皆さんおっしゃっていますけど「みどり」と「イノベーション」というのを融合させるというまさに新しいコンセプト。だからこそ、「みどり」だから健康、「みどり」だからライフスタイルというような話が出てくる話だと思います。

ただ、私ちょっと気になるのは、これだけの「みどり」をしかも公園としての「みどり」以外に、民間施設のさまざまな「みどり」が入るわけですから、それを全体として10年、20年しっかり魅力ある「みどり」として維持管理するための仕組みがとられないと、せっかく「みどり」ということをベースにうめきた2期、さらに1期にも影響あると思います。この地域が展開している意味が薄れてしまうのではないかと。それが心配でございます。

例えば、先ほどセントラルパークの話もございましたけど、セントラルパークはちょっと規模が違いますので、ニューヨークの都心部ではブライアントパークというのがあります。ブライアントパークは、やはり民間ベース「みどり」を維持する、一般的にニューヨークは民間ベースで地をマネジメントしていくわけですから、その仕組みとしてB I Dという仕組みがあつてちょうど、グランフロントがそうであるように動いているわけです。

ニューヨークのかなりの多くのB I Dというのは80%くらい民間の方に課金して、それで活動しているんですけど、ブライアントパークだけは別なんですね。そういうもの、公園ですからそれはできないということもあつて、約4分の1です。それ以外の4分の3をどういうふうに手当しているかということ、4分の3のうちの4分の1が、きょう、出た資料の「みどり」の整備や管理の方向性という1枚紙に載っているんですが、民間事業者

が管理運営、行政から一定程度のお金をもらっている。それによって獲得しているお金で、大体4分の1を担って、総額8億円なんですね、年間で。あとの4億円どうしてるかというと、公園を貸し出すということと、もう一つは、かなり立派なレストランがあって、レストランからあがる賃料、それを計算に入れている。ですから、2億、2億、2億、2億。B I Dの課金が2億、それから行政からの管理委託で2億、公園をさまざまなイベントに貸し出すことによって2億、さらにコーヒーショップの賃料で2億、あわせて8億円で年間予算を組んでいる。

恐らく、日本で、きょう御紹介いただいた「みどり」の整備や管理の方向性の管理委託その他を考えたり、あるいは便益施設をつくるというところでは、それだけの金額は出てこない。これ、8億必要かどうかまた別なんですけど。

相当これは努力しないと恐らく、だめだろうという感じがします。それを、行政と民間がどういう役割分担して、特に公園についての規制緩和というか、利用、活用の仕組みをうまくここは、こういう形で維持管理しているんだということを表現してもらわないといけないんだと、それが一点です。先ほどそれは森さんがぜひその辺が必要だとおっしゃった。

もう一点は村尾さんのおっしゃった、M I C Eの関係なんですけど、私はこう考えておりました、東京にはビッグサイトがあって、今、ビッグサイトとは別に大手町・丸の内・有楽町地区でエリアM I C E、都心型エリアM I C Eをつくろう、そういう運営をしよう。ビッグサイトの役割が当然あって、これからの機能発揮しなければいけないし、おっしゃるようにまだまだ足りない。横浜にある施設もまだまだ足りないという状況で、日本非常にそういう面で欠けている。大阪はぜひつくるべきだと。

しかし、これからの傾向としてエリアM I C Eの機能が出てきて、ただ大手町・丸の内・有楽町地区のエリアM I C Eというのは、既にある施設をどう活用するかというM I C Eであるということと、それから中心となるこういうイノベーション機能といったようなものを具体的に持っているわけではないんです。これ、イノベーション機能を持っているということは、ここをM I C E空間として使うということにとって、非常に有利。多くの研究者や企業、事業者が活動していったその場があるわけですから、新しい物を生み出していく。それを使ってM I C E機能をここで展開するということが重要ですから、M I C E機能とそれ以前のこの議論、イノベーション機能が別々のものではなくて、イノベーション機能もつくり、ここにそれをマネジメントする組織ができて、だからこそエリアM I

C Eが展開できるという、そういうストーリーにすべきだと思う。そういうのは大丸有ではできません、もともと土台がないから。

ここは、これからつくるわけですから、そういう意図を持って、エリアM I C Eをつくらせと。恐らく、世界に類例がないようなM I C E空間をつくれるのではないかと考えております。ぜひ、それは頑張るべきではないかと、以上2点ございます

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございました。具体的なみどりの地名の紹介と、エリアM I C Eとのつくり方についてというのと、思想を教えてくださいまして、我々も少し深掘りした議論をしたいと思っております。ありがとうございます。

では橋爪先生お願いできますでしょうか。

橋爪教授（大阪府立大学・大阪市立大学）

橋爪でございます。うめきた2期は、大阪、関西が世界へまちの強く名前を出すトリガーとなるプロジェクトだと思います。そのためにも、先ほど市長おっしゃったハブ機能、ただハブとはなんぞやということを考えたときに、ここがほかのクラスターよりも最後に行けるんで、既存のクラスター刺激する、活性化する、単なる中継地点、合流地点ではなくて、既存の施設を刺激するというところで、存在感を示すべきだと私は思います。

ただ、我々はどういう面において、世界にこの事業ひいては、大阪、関西をアピールしようとしているのか。例えば、建築、再開発の量的な面で言えば、東京はオリンピックまですさまじいビルの再開発が続く。世界を見れば、あるところでは1,000メートル級のタワーが続々と計画されておると。あと、観光・集客においてもシンガポールがI Rを導入すると決めたのは2005年、我々はもう10年以上おくらせていると。大阪、関西はどこで勝負をするのかと。このうめきた2期がそのトリガーとなるのかということを実際に考えなければいけない。

私は1つには、ユニークネス、ほかにない、先例がない、どこでも見たことがないというふうなプロジェクトにしていかなければいけないと思います。量的なものとかではなくてですね、先例がないということに我々は重きを置かなければいけない。一つには、都心型の産業クラスターというのは世界の中でどれほどユニークなのかと、ほかに例がないのか。我々本当に世界の先例の物まねではなくて、独自のことをしているのかということ

をきっちり示していかなければいけない。

2つ目としては、テーマとなった、ライフデザイン・イノベーションこれは、健康、医療で豊かに生きるための新しい製品、サービスを創出する。本当にこれを実現していったら、世界から大阪注目されるためには、冗談ではなく本当に思っているんですが、大阪、関西に来れば、健康で長生きできるとか、元気になるとか、陽気で元気でいきいきと我々が暮らせるような、そんなまちでないところで、そういう産業の研究だけしているだけだとなんの迫力もない。ようは、世界の人が大阪、関西に行けば健康で元気で長生きできる。どなたとは申しませんが、内臓たくさん摘出されても元気な先生がですね、本当に皆が世界中の人が大阪、関西に行けば、元気になれるんやと。そういうふうなことを強くアピールするっていうところと、あわせないと単に、研究所とか産業開発だけ在中でやっているっていうふうなことじゃ全く魅力がないと思います。

3つ目としては、「みどり」、これは我々この間の議論であえて漢字の緑ではなく、また緑地公園とかではなく、平仮名の「みどり」っていうふうに開いて、かぎ括弧付きの「みどり」というふうに記載をしてきました。なおかつ、比類なきというふうな形容詞もつけています。これは、一体どういうことなんだということを、今後きっちり説明をしていかなければいけない。従来の公園でもない、従来の緑地でもない、従来の郊外緑地でもない。全く新しい魅力的な平仮名の「みどり」っていうものを示すと。これは非常に想像力も必要ですし、本当に先例のないことをやろうと言って、ここをアピールするポイントだということでも今回も話が進んでいると思います。

この都心型の産業クラスターとライフデザイン・イノベーション、この平仮名の「みどり」これを3つ揃えて、世界の人が見たことない空間をつくれというふうな事業として進めていただきたいということを申しますと、非常にハードルが高い。

これから事業者を選定していく中で、前例のないことをせよという要望のもとに、世界の人が憧れるようなそういうところをつくれというふうな、本当に魅力的なプロジェクトにこれは仕立て上げてくるというところに、次の段階へ間もなく進んでいく。そのときに、従来の考えで言うと、入札のときにいかほどの金高で、この土地を買うんだという金額の部分と、あと提案の中身の審査。今回、我々は非常に高いレベルの独自性とか、他に例のないことをしようという志の部分相当強く出ていますので、私としてはぜひそのアイデアの面とか、事業提案の中身でできるだけ評価をいただくと、これはこれから審査していく上で、どういうふうな要項をつくっていくのか、審査基準どうするのかというところで

すけども、内容の評価を高くするような事業であればなと個人的には思っております。

あと、暫定利用に関しては大分前の会議で私は暫定利用をきっちりしていただきたいということで、お話をしまして、今回、具体的にどう進めるのかっていうのが出てきたと思います。この暫定利用に関しましても、よほど世界の人が驚くような、あるいは先ほどありました市民が、皆ここがすごい魅力的な場所になるんだなということを経営できるような、そういうインパクトのある強い事業展開などをぜひ企画いただければなと、恐らく2020年の東京オリンピックに向けて、日本中でさまざまな文化プログラムの部類が実施される、あるいはこの官民両方がそういった中で、このうめきたの暫定利用においてもそういう事業と連携するようなものが形になっていけばというふうに思います。以上です。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。先生おっしゃるとおり、我々もこれからコンペの募集要項をつくっていく中で、どういったところを評価していくかっていうのがその評価の思想というのか、考え方とか思いが伝わるように、工夫もしたいと思っておりますし、継続的に優秀提案者の方々と対話をしていきたいと思っております。その中で、事業者の方々の御意見も十分聞きながら、質の高くて持続性のあるようなまちをつくるという心構えをもってやりたいと思います。ありがとうございます。

それでは、我々のパートナーのURの西日本支社長西村様お願いします。

西村理事・西日本支社長（都市再生機構）

先生方の格調高いお話の後に、ちょっと実務的な話で恐縮でございます。私どもURはこのプロジェクトにつきまして、大阪府さん大阪市さんそれから、地元の経済からの要請に基づきまして2つの役割を担当させていただいております。

1つは区画整理事業、あるいは防災公園街区整備事業による基盤の整備でございます。区画整理事業につきましては、昨年11月に国土交通大臣の認可をいただきまして、既に法律に基づく審議会を発足するなど、スタートを切らせていただいております。

また、現在第一弾の工事といたしまして、JRの大阪駅の北側にございます幹線道路を切り回す、あるいは、新梅田シティに通じております地下の歩道を地上に切りかえるといったこういった工事の発注手続を進めているところでございますので、次回以降のこの部会の際には、いよいよ現場が動き出したなというような様子になってくるのではないかな

というふうに思っております。

それから、2つ目の役回りが用地を取得していった、一定期間保有しながら、民間事業を誘導して、まちづくりを進めるという先ほど来、話題になっている役回りでございます。

昨年秋に、J R T Tさんから用地取得契約を行わせていただきましたので、次は民間事業を誘導する。すなわち、事業用地を民間事業者さんに譲渡する第2次募集、いわゆるコンペのステージになるわけでございます。これから、コンペの実施にいたるまでには、よりよい御提案をいただき、それが実現されますように中核機能、あるいは「みどり」公園にかかる前提条件を今後しっかり詰めていく必要があるというふうに考えてございます。

とりわけ、本日取りまとめていただきました中核機能につきましては、先ほど来御意見がございますように、例えば総合コーディネート機能の機能、役割のさらなる検討、こういったものを踏まえまして、中核機能のどの領域にどういう視点で開発事業者さんの創意工夫なり、御提案なりを期待するのかといった仕分け、整理をしっかりとした上で、コンペを実施するというのが肝要ではないかというふうに考えてございます。

引き続きの御指導をどうぞよろしくお願いいたします。

川田都市計画局長（大阪市）

どうもありがとうございます。時間がもう押してまいりましたので、報告事項の国際的ビジネス環境等改善・シティセールス支援事業の説明を梅田地区のエリアマネジメント実施連絡会の事務局でありますJ Rさんから、それからM I P I Mのプロモーションの説明について大阪市のほうから説明させていただきます。

金田部長（西日本旅客鉄道株式会社）

それでは、大阪駅周辺におきまして、国際的ビジネス環境等改善・シティセールス支援事業につきまして、昨年度も事務局を務めましたJ R西日本から御報告させていただきます。

～ 資料説明（省略） ～

合田うめきた整備担当部長（大阪市）

続きまして、資料ⅧM I P I Mによる都市開発プロモーションについて説明さしあげま

す。

～ 資料説明（省略） ～

川田都市計画局長（大阪市）

最後に、今年のカヌでM I P I M大阪の開催のプロモーションをしてきた動画ありますので、ご覧いただければと思います。

～ 資料説明（省略） ～

民間の事業者の方々に御参加いただいております方に、少しコメントがあればと思っておりますが、藤原社長が行かれましたのでそれも踏まえて、これからの梅田エリアのプロモーションについてお話しいただくと非常にありがたいと思っております。

藤原代表取締役社長（阪神電気鉄道株式会社）

確かに、先ほど出ておりましたようにパリとかイスタンブールとか、それから一番強く感じたロンドンなどは本当に都市がスケール感を持ってみんなにアピールする、そういうブースになっています。先ほど知事がおっしゃったようにその熱意を感じる展示になっている。そういうことを、今度9月には我々もしなければならぬ。こういうふうに思いますが、そのためにはライフデザイン・イノベーションというテーマは非常にいいんじゃないかと思えます。

ただ、そのやり方これをしっかりと今から4カ月ほどの間に決めて、特に日本人にアピールするわけじゃなくて、今回はアジアの方が多いと思えます、そういうアジアの方の目でそのパッションを感じる。こういうことを早く計画する必要がある。私どもも含めてそのように考えております。

先ほど言いましたようにスケール感という意味では、今回の会場の目の前に2期の土地があるわけですから、これとあわせてそのスケール感を享受していただくようなそういう展示ができればとそのように考えております。以上でございます。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。残された月数が5カ月ぐらいですけれども、企画委員会という

のを今回つくっておりまして、民間の方々に非常に御参画、御協力いただいております。物のつくりかたとテーマの訴えかたというのは、なかなか日本人のセンスでいけないところもありますので、そこはフランスの会社なんですけど彼らの展示等も参考にさせていただきながら、物を考えたいと思っております。ありがとうございます。

角会長何かコメントありましたら。

角代表取締役会長（阪急電鉄株式会社）

実は、偶然と言えば、偶然なんですけど、昨日リサーチコンプレックスの第1回の協議会と、キックオフ・シンポジウムがあったんですけれども、御承知のようにリサーチコンプレックスは全国から10カ所が手を挙げました。そして、審査過程を、私、知ってるわけじゃないんですけれども、恐らく1次審査に4カ所残りまして、その4カ所については審査をされる方が、もちろん身分は一切わかりませんが、現地視察もされた中で、私も協議会の会長予定者ということで御挨拶はしたんですけれども、その4カ所の中で唯一神戸の医療産業都市と言いますか、理研が認められたという、選ばれたということで非常に関西にとっては嬉しいニュースだと思います。

その4つ残ったうちの残り3つの中に、御承知のようにけいはんな、学研都市でございますので、ここでぜひとも次の指定をけいはんなが受けることによって、そしてまさにきょうの中核機能を御検討いただきました八木先生を座長として、小寺先生、渡辺先生、まさにこれをつくっていただいた方が神戸のリサーチコンプレックスのキーパーソンですので、もともと大学医学部って大学が違うと壁があるのかなというのが一般的な印象ではありますが、関西は京都と大阪と神戸が一体となって健康医療産業を伸ばしていこうとされているということで、もちろん井村先生の功績が非常に大きいとは思いますがそれを肌で、昨日感じてまいりました。

そういった中で、うめきた2期が関西のハブの機能が持てるということを実感いたしました。ぜひ、そういう方向で御議論が進めばいいなというふうに思います。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。JRの真鍋社長、そろそろ鉄道の工事の本格化していく状況になっておりまして、我々も既存の駅と新しい駅の接続なんか、非常に大事になると思っております。そういうことも含め、少しコメントいただくとありがたいです。

真鍋代表取締役社長（西日本旅客鉄道株式会社）

真鍋でございます。まず、中核機能の議論につきましては本当に広がりのあるテーマ設定ということで、よくおまとめになったなと敬意を表したいと思います。

私のほうが申し上げるのはちょっと具体的かつ小さいことになってしまいますけれど、今お話にありました工事の関係、地下の部分私のほう受託しておりまして6区間ございすけど、3区間は既に契約が終わってお話にありましたとおり、1月から一部着工が始まっておりまして、順調に進んでいると思っております。

その関係では、暫定利用のお話にありましたけれど期間内に暫定利用される工事と私どもの工事との調整をぜひまた円滑に進むようお願いしたいなと思っております。

それから、地上部分につきましては、以前から申し上げてまいりましたけれども、ここにいらっしゃる皆さんが、いかに動いていただけるかということで、動線の問題、これをぜひ今後のデザインの中で御検討いただきたいと思っておりますし、きょうのお話にもありましたようにこのエリアを発展させていくためには、回遊性ということにすぐれた動きのできるような、そういうエリアにしてほしいなと思っておりますので、そのあたりを御検討いただければと思います。以上です。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。基本計画をまとめる前に、安藤先生も会議の場で、今インバウンドがすごく増えている中で、グランフロントも非常にたくさん来られていると。これからもっとインバウンドが来たら、あの歩行者動線でもつかみたいな話を以前指摘されまして、我々もその重要性非常に感じておりますので、JRさんの大阪駅を含めた、いわゆる歩行者動線、地下、地上、2階ってものの計画を少しきちっと詰めて、必要なものは都市計画をしていくとか、そういった覚悟を持っていろいろ取り組みたいと思っておりますので、ぜひ一緒に御検討させていただければと思っております。安藤先生どうぞ。

安藤教授（東京大学）

先週の金曜日に、阪急インターナショナルのホテルの上から見たときに、鉄道と鉄道の間に花が咲いているのを見て、すごい感動した人がいるんです。それは、アリババ会社のジャック・マーというのと私アメリカと香港で仕事をしているんですが、彼がここのとこ

る2カ月に1回くらい来るんですが、食事をしながら上から見て、鉄道と鉄道の間に花が咲いているところを見たことないと言っております。私はそういう小さいことも積み重ねていかないかんのではないかと思いました。

同時に、彼らは、今私のクライアントの4人くらいがプライベートジェットで来ますが、関空に降りるのがなかなか難しいと言っていますから、これも解決してやったほうがいいんじゃないかと思いました。

そして、みんなで市民がちょっと花を咲かせる、企業もちょっと花を咲かせる、結構これが、外国人にとってはなんか感動するらしいんですね。我々はふだん見てますから、すごいな、こんなのに感動するんだなと思ったんですけども、大阪はものすごい国際都市だと彼らは言っていましたので、これも含めて蘇らないかんのではないかと思っています。ありがとうございました。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。あとは、似内さんとか岩田さん何かもし御意見ありましたら。

岩田常務執行役員（三菱地所株式会社）

私どもも、グランフロントのほうでお仕事させていただいておりますけれども、国交省のほうからの補助事業でございます、国際的ビジネス環境改善シティセールス支援事業そういうものを活用した事業を梅田地区のエリアマネジメント実践連絡会と連携して、さまざまな活動させていただいております。特に、2013年4月26日にまちびらきをいたしまして丸3年を迎えようとしております。先ほども出ておりましたけども、3月25日から4月3日、本事業の国家戦略特区の枠組みを活用しながらグランフロント大阪まちびらき3周年を節目としたうめきたフェスティバル2016、こういう題をした都市の祭典、新しい試みとして新しい都市のお祭りを開催いたしまして、国内外の多くの方々に梅田の魅力を発信する非常によい機会になったと感謝しております。約10日間で16万人の人が訪れていたという速報値が出ております。

本年度以降もエリアマネジメント、他のグランフロントが抱えております、ナレッジキャピタルの活動などを通じまして、大阪、うめだをより、まさにいいまちにしていきたいと考えておりますので、引き続き御支援のほどをよろしくお願いしたいと思います。どうもありがとうございました。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございました。まだ発言ない方もおられると思うんですけど、時間がまいっております。最後に市長、知事何かもしございましたら。

吉村大阪市長

済みません、きょうは皆様本当に有意義な御意見いただきまして、ありがとうございました。私もいろいろ意見させてまいりましたが、一言で言うとやはりこのうめきたという大阪のわくわく感とかきらきら感とか、そういうことにつながる、そんなところでなければいけないというふうに思っています。

そのためにも、徹底した都市格を高める「みどり」を中心にしていく。それから、ハブ機能を持たせて新産業を創出させ、新しいビジネスを創出する、まさにそんな拠点にしていくということを目指していきたいというふうに思います。

ちょっと引いて見ると、2020年まで東京は恐らく盛り上がると思いますが、その後の国家的な盛り上がりということについては、大阪というのがこの中心になるようなことを知事とも共有しています。その一つとしてこのうめきたそれから、夢洲のIRと万博というさまざまな仕掛けを今のうちにして、2020年以降この大阪が中心になるように、そういったところを目指していきたいと思います。

このうめきたについてはまたこの会議の場、それから有識者の皆さん中核機能、宿題も多く出ましたけれども、またこれから、いろいろ御助言、お力をお借りしたいと思います。本日は本当にありがとうございます。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございました。それではこれもちまして、きょうの会議を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。